

令和6年度全国安全週間説明会開催

令和6年度全国安全週間説明会は、6月6日、日立シビックセンター音楽ホールにおいて、会員事業所役員、ご担当者様をはじめ、関係者約190名のご参加をいただきまして開催しました。

初めに主催者を代表して、(一社)日立労働基準協会の椎名会長からの挨拶。



今年も安全週間が7月1日から7日まで全国一斉に展開され、6月は準備期間となっております。

労働災害が昨年より増加しており、死亡災害も発生しております。このような災害が決して他人ごとではなく、いつ何時、自分たちに発生してもおかしくない、そのような危機感をもって当たることが大事です。すべての労働災害を防ぎ、災害ゼロで安全安心な明るい職場を作るため、この安全週間、準備月間を使い、安全の取り組みを見直し改善に取り組んでいただきたい。

ご来賓の日立労働基準監督署の大久保署長よりご挨拶。

安全週間は、昭和3年から産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的に続けられ、今年で97回目を迎えます。

日立監督署管内の労働災害発生状況は、昨年、死傷病災害は206件（R4：160件+46）、死亡災害0件（R4：3件—3）です。

死亡災害とともに労働災害全体の減少にむけて、労使一体となって高い安全意識を保っていただきますようお願いします。



日立労働基準監督署の篠原第三方面主任監督官より説明



労働災害の発生状況について、業種、年齢、事故の型などから見た特性とそれらの災害防止対策、特に災害の多くを占める転倒、無理な動作等の災害への対応が急務であること（7月24日14時～日立地区産業支援センター：「転倒、腰痛等の労働災害防止説明会」が開催されます。）

そして、本年度の安全週間実施要綱による具体的な取り組み、高齢者の安全と健康づくり推進のための「エイジフレンドリーガイドライン」などの説明がありました。

労働衛生コンサルタント、化学物質管理専門家の谷口様から説明

労働安全衛生規則の改正により、令和6年4月1日から事業主に次の事項が義務付けられました。

- ・リスクアセスメント対象物を製造、取り扱う業務に従事する労働者に対し、リスクアセスメントの結果に基づき、必要があるときは健康診断を行い必要な措置を講じることなど



今井千尋氏の特別講演「お客様から信頼される安全・安心と礼儀正しさとは？」



・東京ディズニーリゾート、ユニバーサルスタジオジャパンでは、夢、幸せ、ハピネスを、お客様と従業員に届けるため、安心・安全・礼儀正しさをもとに信頼されることを身に着けました。

・信頼されるための基本的な考え方の軸は「相手に対する敬意」。そして想いを正しく表現する（小さなことへのありがとう、謝る力など）こと。感謝の気持ちがあると安心・安全な関係になる。

・人は、やり方（ルール）に影響されるのではなく「場」に影響され、その「場」に相応しい立ち振る舞いを記憶します。

- ・ディズニーで「誕生日おめでとうございます」と言われたらうれしい、その「場」の印象は幸せな空間になり、その「人」は優しい、と思われます。
- ・それぞれの会社の現在の場の印象と、理想とする場と人づくり（どのように見られたいか、安心安全か）を具体的にイメージして再現し、それを目指してどんな行動が安全安心になるか、その行動はお客様にとって安全安心かを、段階を付けて一つひとつ上を目指していきましょう。
- ・（ディズニーはごみが落ちていないが・安心安全の文化）以前はごみがあり当時の社長自ら、ケチャップのついた包み紙なども拾い集め、スーツのポケットにどんどん詰め込んで歩いた。お付きの人から「社長やめてください。」と言ってもやめない。・・・ ある日、お付きの人が自らごみを拾い始めた。社長は「これで大丈夫。自分が積極的にやり始めるとまわりも変わる。」と確信した。）
- ・どうぞ、安心、安全、礼儀正しさを、やれるところから取り組んでみていただきたいと思います。